東ジャワ州概況

2025年6月　在スラバヤ総領事館

地理・歴史

■ 面積
約48.036,84km² （全国の約2.54%）

■ 人口(2024年)
4208万人（全国2位）

■ 州都
スラバヤ市 （人口2,931,611人（2024年））

■ 州内自治体数
38県市（9市29県）

■ 種族 (2010年)
ジャワ 80.7% マドゥラ 17.5% 中華系 0.7%

■ 宗教 (2023年)
イスラム97.28% プロテスタント 1.63% カトリック 0.66% ヒンドゥー0.25% 仏教0.17% 儒教 0.05%, その他 0.01%

■ 言語
インドネシア語,ジャワ語,マドゥラ語など

■ 時間帯
日本時間 －2時間（インドネシア西部時間）

■ ブランタス川、ソロ川が州内中央を流れ、南部にはブロモ山など多くの山を擁し、肥沃な土地に恵まれている。他方、北東部のマドゥラ島は、水源に乏しく、米作適地は少ない。

■ 11～15世紀、クディリ、シンガサリ、マジャパヒト等のヒンドゥー王朝が栄え、多くの遺跡を残している。最後のヒンドゥー王朝マジャパヒト王国は14世紀に最盛期を迎えた後、衰退。その後、中部ジャワに興ったイスラム教国のマタラム王国の支配を経て、18～20世紀、オランダの植民地となった。

■ 第二次大戦終戦直後、東ジャワ州スラバヤでの英軍との戦い（スラバヤ戦争）がインドネシアの独立戦争の発端となり、スラバヤは英雄の都市と呼ばれる。

行政・政治

■ 東ジャワ州
知事 :コフィファ・インダル・パラワンサ（元社会大臣）
副知事 :エミル・ダルダック（前トレンガレック県知事）
※2期目。任期は2025年～2030年

■ スラバヤ市（州都）
市長:エリ・チャフヤディ（元スラバヤ市開発計画局長）
※2期目。任期は、2025年～2030年。

■ 州設立日:1945年10月12日

■ 東ジャワ州は、スカルノ初代大統領、アブドゥルラフマン・ワヒッド第4代大統領、ユドヨノ第6代大統領など多数の政治家を輩出。

■ 海軍第二艦隊司令部（※ジャワ島東部、バリ、カリマンタン、スラウェシ海域を管轄）及び陸軍第五陸軍管区司令部がスラバヤに置かれている。

■ 州議会（全120議席）(2024-2029)

政党名	議席数
民族覚醒党(PKB)	27
闘争民主党(PDIP)	21
グリンドラ	21
ゴルカル党	15
民主党(PD)	11
ナスデム党	10
国民信託党（PAN）	5
福祉正義党（PKS）	5
開発連合党(PPP)	4
インドネシア連帯党	1

経済

■ 州内名目GDP 3.17兆ルピア （全国2位(14.39%)/2024年州統計局）
一人当たり名目GDP 75.7百万ルピア（2024年州統計局）

■ 経済成長率（対前年比）

	2024	2023	2022	2021	2020	2019
全国	5.03	5.05	5.31	3.70	-2.07	5.02
東ジャワ	4.93	4.95	5.34	3.56	-2.33	5.53

■ 主な産業
製造業、稲作、精糖、たばこ、セメント、化学、造船 等

■ 貿易（2024年/州統計局 ※石油・ガス除く）
輸出 257億ドル （1) 日本(14.7%) (2)米国（13.1%) (3)中国(12.5%)
輸入 299億ドル （1) 中国(26.8%) (2) シンガポール(9%) (3)米国(7.3%)

■ 外国直接投資(2024年） 36.6億ドル
(1) シンガポール（32.7%） (2)米国（29.9%) (3)香港 （7.2%）

■ 全国第2の都市といわれるスラバヤ市、コンテナ取扱量で全国2位（2023年時点で全世界49位、東京は46位）の規模を誇るタンジュン・ペラク港を擁し、インドネシア東部地域の経済活動の中心的役割を担っている。

■ インドネシアの米倉とも言われており、農業面では灌漑設備が整備された穀倉地帯が各地に広がり、水稲を初めとする穀物栽培が盛ん(米、さとうきび、とうもろこしは生産量全国1位)。一方、北東部のマドゥラ島は水源に乏しく、米作適地は少ないが、塩田による製塩が盛ん。

■ 州内の工業団地（パスルアン県のPIER工業団地、モジョクルト県のNGORO工業団地等）などには、多数の日系企業が操業。最低賃金は上昇傾向にあるが、インフラなどは比較的恵まれている。

教育・文化

■ 主要大学
・国立アイルランガ大学(UNAIR)
・11月10日工科大学(ITS)
・スラバヤ国立大学(UNESA)
・国立ブラウィジャヤ大学(UB)
・スラバヤ電子工学ポリテクニック（PENS）　など

■ 日本語学習者（2021年国際交流基金調査）
・州別では全国2位の日本語学習者(約9.1万人)
・国別で中国に次ぐ2位(全国で約71.1万人)

■ 主要メディア
・ジャワ・ポス(Jawa Pos)紙
・ラダル・スラバヤ(Radar Surabaya)紙(Jawa Pos系)
・スルヤ(Surya)紙
・スラバヤ・パギ(Surabaya Pagi)紙
・スアラ・スラバヤ（Suara Surabaya)（ラジオ局）

■ 大多数の住民がジャワ人であり、イスラム教徒。また、国内最大のイスラム団体NUの本拠地であり、ジャワとイスラムの色彩が強い。

■ 文化圏として、「アレック」地域と称されるスラバヤ周辺、「マドゥラ」（マドゥラ島）、「マタラマン」（新マタラム王国（17世紀）の影響を受けた中ジャワ寄りの近い地域）、東部の「タパルクダ（蹄鉄の意）」地域（新マタラム王国の影響を受けていない東部地域）に分けられることが多い。

■ 主な観光地
・幻想的な景観のブロモ山（パスルアン県など4県の県境）
・ブルーファイアー（硫黄）のイジェン山（バニュワンギ県とボンドウォソ県との県境）
・マドゥラ島のカラパン・サピ（競牛）
・マジャパヒト王朝時代遺跡群（モジョクルト県トゥロウラン、ブリタール県プナタラン寺院など）
・スカルノ初代大統領廟（ブリタール市）　等

日本との関係

■ 戦前
オランダ領東インド（蘭印）と呼ばれた戦前の時代から、スラバヤには多くの日本人が在留し、銀行、雑貨商の他、写真館、自転車屋、万年筆屋等の技術職の店を営んでいた。1920年（大正9年）、日本帝国領事館が開設され、1925年（大正14年）には蘭印（当時）最初の日本人国民学校として（世界で第3番目）開校（小説家の故有吉佐和子氏は戦前の在校生徒）。1938年には全校児童数117名との記録が残る。

■ 日本人会（東ジャワ・ジャパン・クラブ）
1973年4月に設立。日本人学校の維持運営、会員親睦行事、日本語を学習する学生に対する奨学金支給事業、会員向け月刊会報誌「ブランタス」の発行や図書の貸し出し等を行っている他、スラバヤ市内にある「日本人墓地」、マラン市内の「マラン日本人慰霊碑」の管理も行い、定期的に墓参・参拝を実施。会員数351名（2025年3月）。

■ スラバヤ日本人学校(SJS)
1976年に日本語補習校として再開校後、1979年に日本政府から全日制学校として認可される。1980年スラバヤ市内のダルモ地区に建設されたダルモ校舎時代を経て、1995年1 月からクティンタン地区に現在の校舎を建設。児童生徒数は31名（2025年4月）。

■ 留学生交流
アイルランガ大学（UNAIR）、ブラウィジャヤ大学、11月10日工科大学（ITS）には元日本留学生の教員が多数。東ジャワ・インドネシア元日本留学生協会（プルサダ）が留学相談に協力。

■ 姉妹都市

1984年	東ジャワ州＝大阪府	30周年（2014年）を機に学生交流開始。
1997年	スラバヤ市＝高知市	2003年より「スラバヤよさこい祭り」開催（注：新型コロナウイルスの影響により、2021年及び2022年は中止。）。
2012年 (環境姉妹都市)	スラバヤ市＝北九州市	スラバヤ市内に北九州市協力の リサイクル型廃棄物中間処理施設あり。

経済協力

■ 1960年代から40年の長きにわたり実施された「ブランタス河総合開発プロジェクト」は、日本とインドネシアの技術移転のシンボル「ブランタス精神」として語り継がれている。

■ 主な技術協力案件
「スラバヤ工科大学情報技術高等人材育成計画プロジェクトフェーズ2（2012年～2014年）」

■ 主な草の根・人間の安全保障無償資金協力・草の根文化無償資金協力
「東ジャワ州シトゥボンド県産婦人科棟建設計画」（2024年）
「東ジャワ州パチタン県におけるイスラム小学校校舎建設計画」（2023年）
「東ジャワ州ンガンジュク県におけるイスラム小学校校舎建設計画」（2023年）
「東ジャワ州ブリタル県におけるイスラム中学校校舎建設計画」（2023年）
「ドクター・ストモ大学日本語学習機材整備計画」（2022年）など